



crossing cafe



Vol.24

2025.7.1

発行:スペースベン
毎月1日 328部発行

(webでも配信中)

spacebenfans.com/kawaraban.html

TOPIC

空間シアターアクセブ×劇団おんず 短編3部作 八戸公演

〈空間シアターアクセブ〉作・演出/田邊 克彦

「気になる穴」 森田誠(客演)・小笠原真理子・藤本一喜
沼山真紀子・國柄絵里子・葛西大志「飛んで、エアポート」 森田誠(客演)・木村くに(客演)
如山由美子・田中勉(客演)

〈劇団おんず〉原案/劇団おんず 脚本/加藤健太郎(劇団INTELVISTA)

「おかえり鮭太郎」

中村貴子・加藤健太郎(劇団INTELVISTA)・磯沼寿美子・磯沼秀樹
蛇名久美子・西野陽子・浅田千草・佐々木真奈

2025年 **7月20日(日)** 19:00開演
21日(月・祝) 14:00開演

※開場は開演30分前/上演時間は約2時間を予定

短編3部作 空間シアターアクセブ×劇団おんず 八戸公演

作・演出: 田邊 克彦
舞台監督: 藤本 一喜

気になる穴
小笠原真理子 藤本一喜 沼山真紀子 國柄絵里子 葛西大志

飛んで、エアポート
森田 誠(客演) 木村くに(客演) 如山由美子 田中勉(客演)

劇団おんず
おかえり鮭太郎
原案: 劇団おんず 脚本: 加藤健太郎(劇団INTELVISTA)
出演: 中村貴子・加藤健太郎(劇団INTELVISTA)
磯沼寿美子・磯沼秀樹・蛇名久美子・西野陽子・浅田千草・佐々木真奈

「おんず」とは南部弁で次男をさす言葉。劇団おんずは、おいらせ町中心に活動しており、青森県南部地方の方言を継り交ぜながら、おいらせの風土と心をテーマに、日常生活の中で繰り上げられる人々の思いや心を大切に作品を上演し続けている。

2025 7/20(日) 19:00
7/21(月・祝) 14:00

※開場は開演30分前/上演時間は約2時間を予定

【料金】
一般 1,500円
学生 1,000円 (当日各500円増)

(チケット予約) 1日限定50席
【空間シアターアクセブ】
☎090-1933-7943 (田邊) acsep_sinmachi@yahoo.co.jp
【スペースベン】
☎080-6025-0990 (田中) ネット予約 <https://livepocket.jp/e/acsep2507>

劇場 スペースベン
青森県八戸市柏崎1-11-8

※公共交通機関においていただく近隣のバハホテル裏の西町駐車場またはタイムズ八戸柏崎(どちらも有料)などをご利用ください

ネット予約QRコード

●劇場 スペースベン



協力/劇団おんず(おいらせ)
演劇ユニット 一揆の星(弘前)
スペースベン(八戸)
制作/空間シアター アクセブ

〈theater information〉



第21回 八戸東高校表現科公演

【日時】2025.7.19(土) 13:00開演

【会場】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公会堂)

【料金】無料

【問合せ】八戸東高校 ☎0178-43-0262

びすろ座合唱団
真夏のオペラ・ガラ コンサート

【日時】2025.7.20(日)

12:30開場13:00開演

【会場】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公民館)

【料金】¥3,000

【チケット取扱】

八戸ポータルミュージアム はっち

デーリー東北チケットセンター

【問合せ】びすろ座 ☎070-8534-7622

八戸市出身のバリトン歌手・上田誠司により2022年に旗揚げされたオペラ団体「びすろ座」がオペラ名場面をお届け。

劇団ビスマス
不定期公演 "み"

【日時】2025.7.26(土)

16:30開場 17:00-18:30

7.27(日)

13:30開場 14:00-15:30

【会場】八戸ポータルミュージアム はっち
2F シアター2【料金】一般 1,200円(前売り1,000円)
高校生 700円(前売り500円)

※定員50名。中学生以下の入場不可

【チケット取扱】

八戸ポータルミュージアム はっち

【チケット予約】<https://x.gd/vz9Dj>

【問合せ】劇団ビスマス

gekidanbismuth@gmail.com

2年ぶりの公演テーマは狂気&ホラー! 暑い夏にひとさじの涼しさをお楽しみください

〈スペースベン 7月の予定〉

FANS 予定 第1639~1642回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

7月25日(金) 佐藤拓之即興演劇

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

〈Dance Lesson〉

■毎週月曜日 18:00~19:00/HARU House dance Beginner

■毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL

■最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。

■毎月第1・3水曜日開催 14:00-15:30予定。

※チェーホフ「三人姉妹」他を予定

※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈Free Column〉

劇場の 片隅から

文/田邊 克彦
(空間シアター アクセブ)

久しぶりの八戸公演。必然的に文字で「八戸」と書くことが多くなります。で、よく文字を見てみると「八戸」という字は、良い字だなと思うのです。「八」は、山のようにドッシリとしていて、「山」より山らしい。「戸」の字は、文字の「ノ」の部分が、戸を開けているように見える。「戸」を開いてドッシリと来る人を迎えている。…ずっと見てると「八」の字は、手編み棒にも見えてくる。来る人の縁を編み込んで繋げてくれる。名は体を現す…私は「八戸」が、そういう街だと思うのです。

特別寄稿

風に記された文字を紡ぐ

— 劇評 榎谷伸夫一人芝居

『海村 ～老漁師 吉田正吉が語る鮫村異聞～』

文／五十嵐 隆

(元・岩手県立久慈高等学校演劇部顧問)

なぜ人は詩人になるのか。この問いに詩人・谷川俊太郎は「私が言葉を追う故ではなく、私が世界を追う故に」と答えている。市井に生きる者がその生と世界とを語ろうとすると、綴られる言葉はときに一篇の詩となり、一紡の物語となる。

物語は八戸市・鮫地区に伝わる鮫神楽の演目「墓獅子」から幕を開ける。権現に死者の霊を降臨させ、謡と舞で生者と死者が交流する郷土芸能・墓獅子。その謡が響き、額に天冠をつけた榎谷伸夫演じる吉田正吉が登場する。想いを残しこの世を去った霊がひととき現世に姿を顕し、その土地に纏わる物語を語る。一人芝居『海村』は、そんな「夢幻能」の形式をとっている。

明治33年生まれ、榎谷の父をモデルとした主人公・吉田正吉が語る在りし日の鮫村の風景。一攫千金を狙う漁師や浜の女たち、駆け回る子供ら、国内史上最大の漁民一揆「くじら騒動」、浜に打ちつける波の音、水底の岩々、春の訪れを告げるゴメ(海猫)の鳴き声…。笑い、泣き、のたうちながら鮫に生きた人々の情景。榎谷の語りは紛れもなくその土地の生を言祝ぐ「国褒め」である。そして国褒めの機能がそうであるように、演者の紡ぐ言葉によって観客はつかの間そこに父母や祖父母の姿を垣間見、あるいはかつて鮫に響いた人々の声、波や風の音を聴く。戦争と高度経済成長という激動の時代に生きた吉田正吉は変わりゆく鮫の浜と燕島の姿を時に笑い、時に慟哭の叫びとともに語り続ける。榎谷伸夫、渾身の一人芝居である。

縁あって、私は40年以上にわたり八戸という街の演劇を見続ける機会に恵まれた。少し古い話になるが、1980年代の八戸の演劇状況は人口25万の地方都市としては一種異様な熱を帯びていた。モレキュラー・シアター(当時は劇団千一年王国)の豊島重之、八戸小劇場の新藤耕二、高校演劇の小寺隆昭、そして榎谷らの活動によって演劇熱渦巻く八戸にはベテラン、若手、高校演劇部など多くの演劇ユニットが薙(うご)めいていた。「東北演劇祭」や「カフカ・フェスティバル」など国際的な演劇イベントが開催され、野心的な若手劇団が挑発的な芝居を打ち、あるいは前衛劇団が世界の演劇シーンの最先端を切り拓く表現に挑んでいた。だがその熱気はいつしか失われ、あの異常な熱を帯びた八戸の演劇シーンを知る人も今はもう少ない。この街で演劇活動に情熱を傾けた人たちも、その多くがどこかへ消え去っていった。吉田正吉が語る、失われた鮫の賑わいのように。

浜を固めたコンクリートは打ちつける波の音すら変える。全てが変わっていった。変わらないものはこの街に吹く風

だけ。その風に記された見えない文字を記そうとするかのように気が付けば榎谷伸夫だけが相変わらず、この街に生きる人々の物語を紡ごうと足掻き続けていた。来し方を語り終えた劇の終盤、老いた身体を引きずり出なくなった声を振り絞りながら、ひとり小舟を漕ぐ老漁師・吉田正吉。その姿に不覚にも私は涙が出しまった。

太平洋に面した北の港町・八戸。その土地で舞台を創り、物語を紡ぐ。私は『海村』という芝居は八戸という港町に土着した近代演劇の一つの到達点であるように思う。この芝居に比肩しうる「八戸の演劇」を、寡聞にして私は知らない。

(写真)©梅内弘樹



■海村
～老漁師 吉田正吉が語る鮫村異聞～
2025.5.30(金)・31(土)
SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公民館ホール)

●筆者近況

今年6月には神奈川・秦野と小田原で八戸商業高校時代の『あどりぶどらまくらぶ』が、昨年秋には埼玉・所沢で久慈高校時代の『ニッポンSFジェネレーションR』が上演されました。演劇部顧問は引退しても、作品は時を超え生き続けるようです。多謝。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか?

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



FANSってナンだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。